仕　　様

■1t油圧パンタジャッキ仕様

型　　式	FJ-100	全　　長	(約)375mm
最大耐荷重	1000kg	ハンドル全長	(約)310mm
適用車両	車両総重量1800kg以下	ハンドル取付後の全長	(約)460mm
最 低 値	(約)140mm	油　　量	55cc
ストローク	(約)216mm	作 動 油	ISOVG22～46
最 高 値	(約)356mm	使用温度範囲	-20℃～60℃
ベースサイズ	132×120mm	本体重量	6.8kg

大自工業株式会社
〒582-0027 大阪府柏原市円明町1000-126
TEL.072-976-0101（代）
http://www.daiji.co.jp/　Eメール:info@daiji.co.jp

※本製品の仕様及びカラーは改良の為、予告なく変更する場合があります。
　予めご了承ください。
※本製品は日本で企画・開発し、中国で製造しています。

MADE IN CHINA

Meltec Mechanical electrotechnics **FJ-100**

1t 油圧 パンタジャッキ

取扱説明書

この度は、FJ-100「1t油圧パンタジャッキ」をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
この取扱説明書をお読みいただき、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。
※いざというときのために、本書はすぐに取り出せる所に必ず保管してください。

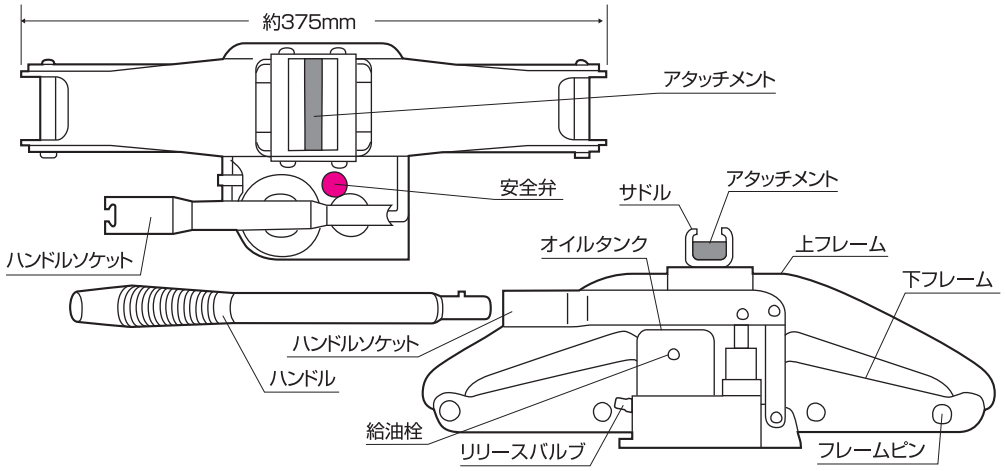
あらゆる状況に対応しサポートする

自動車のタイヤ交換、タイヤチェーンの着脱や整備をスムーズに…

■使用目的

1t油圧パンタジャッキは自動車の車輪をジャッキアップしてタイヤ交換、タイヤチェーンの着脱や整備の際に自動車をジャッキスタンド等で保持させる為に、ジャッキアップまたは、ジャッキダウンさせる目的で使用するジャッキです。ジャッキアップ状態での洗車作業等には使用できません。

各部の名称



使用上のご注意

●ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、よく理解された上で正しくお使いください。

FJ-100 1t 油圧パンタジャッキを安全に正しくお使いいただくために必ずお守りください。

お買い上げいただいた製品本体表示および取扱説明書には、使用者や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品をを安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を表示しています。
その表示と図記号の意味は右記のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険
この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意
この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

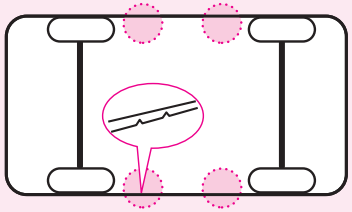
⚠ 危険

●ジャッキを改造したり用途以外の目的で使用しないでください。
●取扱説明書をよく読み十分理解された上で使用してください。取扱説明書には重要事項の説明が記載されています。記載内容に従わずに使用した場合、重大な事故につながります。
●安全バルブは出荷時に安全荷重に調整されていますので調整等は絶対にしないでください。
●ジャッキに異常が発生した場合（オイル漏れ、フレーム変形等）、使用を中止して、異常箇所の修復を完全に行うまでジャッキを使用せず、直ちに販売店又は当社宛へご連絡ください。そのままご使用になった場合、重大な事故につながる危険があります。
●油圧式の能力以上の負荷で使用しないでください。

●電子制御エアサスペンション装着車は、ジャッキアップ時、必ず車両の取扱説明書をご確認の上作業をしてください。
車高がかわり思わぬ事故につながる恐れがあります。
●ご使用前に無負荷状態でジャッキアップテストを行ってください。
もし不具合な点がありましたら、ただちに使用を中止してください。そのまま使用しますと車両やジャッキの破損ばかりではなく、ケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。不具合な点がありましたら、必ずご使用前に販売店または、当社までご連絡ください。また、製品を使用中に異常が発生したらすぐに使用を中止し、販売店又は当社へご連絡ください。
●絶対に耐荷重以上の荷重をかけないでください。
ジャッキが荷重に耐えられずジャッキスタンドが破損し車両が落下するばかりではなく、ケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。
●ジャッキアップする車両のまわりに人がいないことを確認してください。
ジャッキアップの時、まわりに人がいた場合、万が一車両が動くと、ケガや人命にかかわる事故を負わせてしまうことになります。ジャッキアップ車両の3メートル以内に、人がいない事を確認してから作業を行ってください。
●ジャッキアップする車両のまわりに他の車両や物がないことを確認してください。
ジャッキアップの時、万が一車両が動くと、ジャッキアップ車両が他の車両や物に衝突する恐れがあります。
ジャッキアップ車両のまわりに他の車両や物がないことを確認してから作業を行ってください。
●ジャッキアップする時は、必ず水平でコンクリート等の固い場所で行ってください。
傾斜地や地面が軟弱な場所、及び平坦でない場所では使用しないでください。
車両が落下する恐れがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。
●ジャッキアップの前に、必ず車両のサイドブレーキをかけて、上げないタイヤに車輪止めをしてから行ってください。
そのままジャッキアップすると車両が動き、ジャッキがはずれ車両が落下する恐れがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こすことにもなりますので必ず行ってください。
●ジャッキアップする時は、必ず車両指定のジャッキポイントでジャッキアップしてください。
ジャッキポイント以外の所でジャッキアップを行いますと、車両の破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こすことになります。

指定以外の位置でジャッキアップしますと、その部分が破損する恐れがありますので、必ずジャッキポイントが適切な位置か確認してから行ってください。また、わからない時は車の販売店などで確認してください。

ジャッキポイントは使用されるまえに、カーディーラー及び整備工場で必ず確認してください。
純正ジャッキ用のポイントでは車両を破損させる場合があります。



車両をジャッキアップさせる作業は様々な危険がともなうものですので、十分注意し慎重に作業を行ってください。

●車両指定ジャッキポイントでジャッキアップする場合、ジャッキのサドル形状とジャッキポイントの形状が合っているか必ず確認してください。
ジャッキのサドルが、ジャッキポイントに合わない状態で無理にジャッキアップしますと、ジャッキポイントの破損ばかりか、ケガや人命にかかわる事故を引き起こすことになります。
●ジャッキアップをして作業する場合は安全の為、必ずジャッキスタンドで車両を支えてから行ってください。
ジャッキだけで支えた状態ではバランスが悪く、作業を行いますと車両が落下する恐れがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こすことにもなります。
必ず作業する時はジャッキスタンドで確実に車両を支えてから行ってください。

●ジャッキアップ中に車両の下に頭や体を入れないでください。
万が一ジャッキアップ中にジャッキポイントからサドルがズレて落下した場合、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。
●ジャッキを下ろす時は、車両の下に人がいないか確認とジャッキを下ろす人の体が車両に当たらないかを確認してください。
人が車両の下に入っている状態でジャッキを下ろすと、車両に押しつぶされケガだけではなく人命にかかわる事故を引き起こすことになります。また、ジャッキを下ろす人やそれ以外の人の体が車両を下ろした時に接触すると、車体が体に当たりケガをする恐れがあります。
●ジャッキアップしたままで車両から離れないでください。
車両から離れている時に、万が一使用者以外の人が車両やジャッキを触ったりすると、ジャッキの破損や車両が落下し車両の破損だけでなく、使用者以外の人にもケガや人命にかかわる事故を負わせてしまうことになります。

⚠ 注意

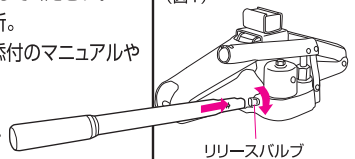
●ジャッキ2台以上の同時使用はしないでください。
●ジャッキを下げている途中に、ジャッキのハンドル以外の場所には絶対に触れないでください。
ジャッキの可動部分に手など触れると、はさまれてケガを負う可能性があります。
●ジャッキの持ち運びをする時に、指などをはさまないよう注意してください。
ジャッキの可動部分を指などで触れると、はさまれてしまう可能性があり、ケガを負う場合があります。
また、1人で持って重いと感じたら無理に1人で持たず、2人以上で持ち運びしてください。
ジャッキを路面に下ろす時も路面とジャッキの間で指をはさんでケガをしないよう十分注意してください。
●ジャッキのハンドルはジャッキアップの時以外は、必ず外してください。
使用者や使用者以外がハンドルにつまずいてケガをする可能性があります。
また、ジャッキがはずれ車体が落下する恐れがあり大変危険です。ハンドルは本体からはずしてください。
●ジャッキを下げる時は、必ずハンドルでリリースバルブをゆっくりとゆるめてください。
バルブをゆるめる時、勢いよくまわすと、車両が急激に落下し車両及びジャッキの破損につながります。
●ジャッキアップ中にジャッキポイントとサドルがズレる事がありますので時々確認してください。
ジャッキポイントからサドルがズレて、はずれてしまうとジャッキの破損ばかりではなく、車両の破損につながりますので時々チェックしてください。

使用方法

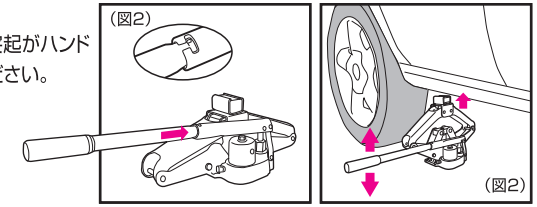
ジャッキアップ

①水平で堅い路面にジャッキを置き、ジャッキポイント※の位置にサドルをセットしてください。
※ジャッキポイント:車体下部にあるジャッキのサドルを当てるための最適な箇所。
（フロアージャッキ用のジャッキポイントは車種によって異なりますので自動車に添付のマニュアルや自動車メーカー、販売店に問い合わせる等、事前に確認してください。）
②ハンドルの先端をリリースバルブに差し込み、ハンドルを時計方向（右側）に回してリリースバルブを締めます。締め付けが不十分な場合、ジャッキアップしませんので、しっかりと締め付けてください。（図1参照）
③ハンドルをハンドルソケットに差し込んでください。
※操作中にハンドルが抜けないように、ハンドル先端の突起がハンドルソケットの溝に正しくセットされているか確認してください。
（図2参照）
④車体のジャッキポイントにジャッキのサドルの溝が正しくセットされているか確認し、ハンドルを上下に動かして徐々にジャッキアップしてください。（図3参照）

（図1）



（図2）

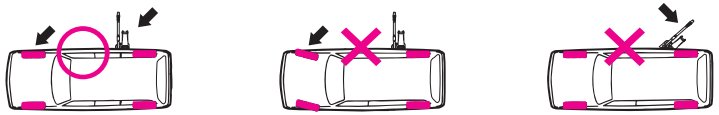


⚠ 危険

●ジャッキアップの時は、前輪をまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対して垂直に入れてください。
ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。
●サドルを上昇させて、サドルがジャッキポイントに当たった時点で一度停止させて、サドルが車体のジャッキポイントの正しい位置（荷重の中心がサドルの中央にかかる位置）にセットされている事を確認してください。セットする位置がずれていた場合、車体が変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

●車のタイヤは、車の直進方向にして、ジャッキを車に対してまっすぐに入れてください。

タイヤの向き（正）　ジャッキの向き（正）　タイヤの向き（誤）　ジャッキの向き（誤）



⚠ 注意

●荷物や人を乗せたままジャッキアップしないでください。
●自動車のエンジンをかけたままで使用しないでください。
●ジャッキアップは、自動車のサイドブレーキをかけ、シフトはロー（A/T車は[P]パーキング）の位置で行ってください。
●ジャッキアップする場合は、必ず車輪止めを使用してください。
●ハンドルの上下操作は、ハンドルをしっかり握って操作してください。ジャッキに異常が発生した場合、ハンドルがはね上がったり、急に操作が軽くなることがあり、ケガをすることがあります。

一定の高さで停止させる場合

ハンドルの上下操作を停止すると、サドルが自動車を保持したままの状態になります。

⚠ 危険

●ジャッキアップした状態のままで車体の下には絶対に入らないでください。
車体の下に入って作業をする場合は必ず十分な耐荷重のあるジャッキスタンドを使用してください。
●ジャッキアップした状態のまま自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないでください。

ジャッキダウン

ハンドルを反時計方向（左側）に、ゆっくり回すとリリースバルブが緩み、サドルが下降します。（図3参照）

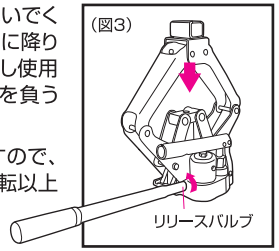
⚠ 危険

●ハンドルを急に回さないでください。サドルが急激に降りるため、自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う恐れがあります。

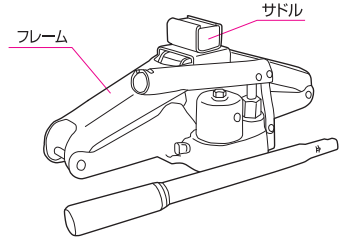
⚠ 注意

●故障の原因になりますので、リリースバルブは1回転以上回さないでください。

（図3）



作業終了　作業が終了したらサドルやフレーム等に付着した泥、オイル、グリス、水滴等の汚れをきれいに拭き取ってください。



メンテナンス

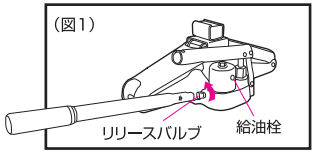
ジャッキのお手入れ

●ジャッキを使用しない時は、錆などによる動作不良防止のため、フレーム及びハンドルソケットを最下位の位置に下げておいてください。
●ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
●オイルの量が減少した場合、適量を補充してください。(下記ジャッキオイルの補充及び交換参照)
●頻繁にご使用になる場合は、最良の状態で長期間保持させるため約1年毎にジャッキオイルを交換してください。(下記ジャッキオイルの補充及び交換参照)
●保管する時は、錆や動作不良などの故障の原因になりますので、雨や雪の当たるところ及び湿気の多いところには保管しないでください。

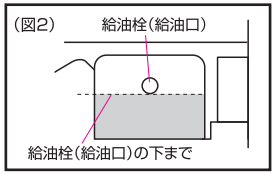
ジャッキオイルの補充及び交換

①給油栓をマイナスドライバーなどではずしてリリースバルブをゆるめます。(図1参照)
②給油栓の穴を下に向けて、古いオイルを排出してください。
③ほぼ完全に排出した後にジャッキオイル(F-62別売)を給油栓の穴から入れすぎに注意して少量づつ注入してください。また、オイル注入中にゴミが入らないように注意してください。
④ジャッキオイルの適正量(55cc)は、フレームを最下位まで下げた状態で給油栓(給油口)の下の位置です。(図2参照)
⑤ジャッキが途中までしか上がらない時は、ジャッキオイルの不足、またはエアー抜きが完全に出来ていない事が考えられますのでジャッキオイルを適正な量まで補充して、エアー抜きをしてください。
⑥補充作業が終了しましたら、給油栓を元の状態に戻してください。

(図1)



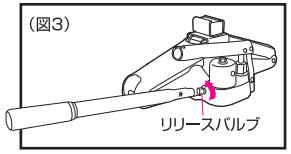
(図2)



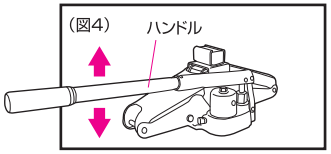
エアー抜き作業方法

①リリースバルブを1回転ゆるめてください。(図3参照)
②給油栓を外してください。
③オイルが適量か確認してください。
④ハンドルを上下にすばやく5~6回ポンプ操作してください。(図4参照)
⑤再度オイルが適量か確認してください。
⑥給油栓を取り付けてください。
⑦正常にジャッキアップ作動するか確認してください。
※症状が改善されない場合は手順①~④を繰り返し行ってください。

(図3)



(図4)



アタッチメントの交換

●劣化や破損、紛失の時は、別売のアタッチメントをお求めの上ご使用ください。

⚠ 注意

●火気のある場所、またはその近くでオイル交換及び補充をしないでください。
●ジャッキオイルは指定されたものを使用してください。エンジンオイルやその他のオイルは粘度等が違うため作動不良の原因となりますので絶対に使用しないでください。
ジャッキオイル(ISOVG22~46)をお勧めします。
●ジャッキオイルを補充する時にオイルタンクいっぱいにジャッキオイルを給油するとジャッキが作動しません。
必ずフレームを最下位に下げた状態で、給油栓(給油口)の下の位置まで給油してください。

メンテナンス

動作が異常な時や、故障と思われる前に下記内容にて安全な状態を確認の上、点検を行ってください。
点検を行っても改善されない場合は作業を行わず、販売店または当社へお問い合わせください。

ジャッキが上昇(最伸長まで)しない場合

まず本体に変形や割れ、
オイル漏れ等の不具合を確認する
▼
リリースバルブを確認
右(時計回り)にいっぱい締め込む。
▼
ジャッキオイルの適正量を確認
ジャッキオイルの補充及び交換を参照。
▼
ポンプ内にエアーが入っている
エアー抜きを試す。
▼
販売店または当社までお問い合わせください

ジャッキが自然に下がってくる場合

リリースバルブが締まっていない
右(時計回り)にいっぱい締め込む。
▼
作業を中止する
事故につながる恐れがあります。
▼
本体に変形や割れ、
オイル漏れ等の不具合を確認する
▼
ジャッキオイルの適正量を確認
ジャッキオイルの補充及び交換を参照。
▼
販売店または当社までお問い合わせください

ジャッキが下がらない場合

リリースバルブを確認
左(反時計回り)に4分の1回す。
▼
販売店または当社までお問い合わせください

ハンドルがはね上がる

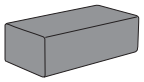
まず本体に変形や割れ、
オイル漏れ等の不具合を確認する
▼
ジャッキオイルの適正量を確認
ジャッキオイルの補充及び交換を参照。
▼
ポンプ内にエアーが入っている
エアー抜きを試す。
▼
販売店または当社までお問い合わせください

関連商品(別売)

FJ-100-1
アタッチメント

ジャッキアップ時、車体にキズを付けない為のアタッチメント。
劣化や破損、紛失の時にご使用ください。

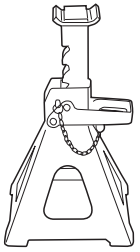
●材質:合成ゴム



F-23
ジャッキスタンド2

安全性を重視した設計。
6段階調節タイプ。

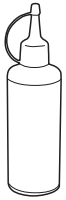
●最大耐荷重:4トン
●ストローク:260~410mm
●商品サイズ:208(W)×260(H)×190(D)mm
●重量:約2.8kg×2台



F-62
ジャッキオイル

油圧作動油、高速度軸受油と
幅広い用途の高級潤滑油。
ベースオイルに各種添加剤を配合。
粘度・ISO 32(第4石油類危険等級Ⅲ)

●用量:液体・200㎖



FTW-01
ゴム製タイヤストッパー

ゴム製で、タイヤがすべらずしっかり止める。
ギザギザ加工がタイヤと地面にしっかりくい込む。
ひも付きで、取り外しや持ち運び、保管等非常に便利。

●材質:ゴム
●反射テープ4枚付